

# おごせ 教育 Pick Up



## 越生小学校

全校で、クラス対抗の長縄大会を行っています。寒さに負けず、休み時間にもたくさん練習しています。

## 梅園小学校

11月19日に今年度より内容をリニューアルした収穫祭を実施しました。来賓のみなさん、日赤奉仕団のみなさん、保護者・地域のみなさん、PTA本部・イベント部のみなさんに支えられ、参加する誰もが笑顔になった収穫祭となりました。



## 越生中学校

12月9日、校内ロードレース大会が行われました。一人一人が自分の立てた目標タイムに向かって走り、全員が無事にゴール。一生懸命走っている姿に、応援する生徒や保護者、地域の方からたくさんの声援をいただきました。



### おごせっ子広場

町内の小中学校や町の行事等に参加する子どもたちを写真で紹介するコーナーです。



昨年10月の埼玉県高校美術展で、本校美術部生徒の作品が優秀賞を受賞し、今年、宮城県で開催される総文祭出場

**美術部全国大会11年連続  
出場が決定！**

本校は昭和47年に越生町内唯一の県立高校として開校し、今年で創立46年目を迎えます。普通科・美術科の2学科を併設し、全14クラスの小規模校ですが、生徒、教員、保護者、そして地域との関係が密接で、「アットホーム」な校風が特徴です。

ズームイン教育237  
**地域と密接した  
アットホームな学校**

県立越生高等学校

今後とも県立越生高等学校の応援をよろしく願います。



が決定しました。全国大会は11年連続出場となりました。  
**伝統のロードレース大会  
過去最高の好タイム**  
昨年11月、第45回「ロードレース大会」(10km走)を実施しました。創立2年目から続く伝統行事で、今回は全完走者が制限タイム内でゴールし、過去最高の好記録でした。当日は、本校PTA後援会の保護者によるコース監察や給水所運営などご協力をいただきました。また、この行事の実施にあたって、近隣のみなさんからご理解ご協力、そして、暖かいご声援をいただきました。ありがとうございます。



龍穩寺経蔵（埼玉県指定文化財）

# 越生浪漫

No.96

龍穩寺経蔵と  
酒井抱一

県内には比類のない貴重な建造物である龍ヶ谷の龍穩寺経蔵は、天保12年（1841）に建立されました。正面の唐破風の向拝の天井に、経年劣化のため、かなり薄くなつてはいますが、見事な龍が描かれています。落款は円印で「抱一」とあります。

酒井抱一（1761〜18

28）は、姫路藩主の弟でありながら画業を志しました。尾形光琳に心酔し、伝統的な画風に新たな好みや写実的な描写を取り入れ、江戸後期に発展した江戸琳派の祖と称えられています。ところで、抱一は文政11年（1828）に死去しているのに、死後14年経って経蔵の龍の絵が完成したこととなります。

龍穩寺に伝えられる天保13年（1842）「経蔵建立決算帳」を見ると、建立にかかる費用、関わった人物への祝儀などが記され、「金壺分画師抱玉江祝儀」とあります。山田抱玉（生没年不詳）は、名を直刻、字は子飾、通称は録太郎と名乗りました。抱一が亡くなるまでの間過ごした、上野山下の根岸大塚村「雨華庵」で学んだ直門で、天保期に幅広く活躍し人気を博しました。経蔵内部の天井と壁面は抱玉の作と推測されますが、落款はなく、知られている抱玉の落款は方形に「抱玉畫印」の大印です。

抱玉の同門に、晩年の抱一との合作もある田中抱二（1812〜1885）がいます。



経蔵向拝の天井絵 龍



天井絵右下の落款

師の後継者との意識からか、円印に「抱二」の落款を用いた作品もありますが、決算帳に名は見えず、謎を残すところでした。近年、酒井抱一や琳派に関する展覧会が催されるなど、江戸琳派が脚光を浴びています。龍穩寺の「抱一」落款の謎について、新たな資料が発見される日も近いかもしれません。

## おごせ 昆虫と自然の館 通信 No.57

西年にちなんだ  
小さく奇妙な昆虫

ヒルガオトリバガ

「チョウ目 タテハチョウ科」

今年の子支は西ですので、鳥に関係する昆虫、トリバガ（鳥羽蛾）を紹介します。このグループ（トリバガ科）は、国内に60種類ほどが生息する小型の蛾の仲間です。前翅と後翅に深い切れ込みがあります。この構造が、「鳥の羽」を思わせるため、この名称が付けられました。◆我が家の紅茶パックはヨーロッパ製の陶器の壺に収納されています。中央にヨーロッパの昆虫が描かれ、その中の1種がトリバガです。中央上段に配置されていることを考えると、この生物の存在を高く評価している作者の気持ちが伝わってきます（写真参照）◆越生の街中にも、ヒルガオを食べるトリバガが生息しています。暑い夏の日、垣根などにピンク色をしたヒ

ルガオの花を発見すると、涼しい気持ちになります。その葉の表皮を残す食害痕は、ヒルガオトリバガの食痕です。小さなアオムシや、周囲を飛び交う小型の蛾を発見したら本種の可能性が高く、成虫の奇妙な翅の形状に驚きます。体長10mmほどの灰色をした小型種のため、最初は発見が容易ではありません。しかし、その奇妙な形状の面白さを知った時は嬉しくなります。◆本種はヒルガオと同じ仲間のサツマイモの葉も食べますが、収量への影響はほとんどありません。また、写真（陶器の絵）に示した、ヨーロッパでヒルガオを食べるトリバガと、日本のヒルガオトリバガは、過去に同一種とされてきましたが、現在は別種とされています。（江村薫）



▶ヨーロッパの食卓用の壺、そこに描かれたトリバガ（左上）